

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月31日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3092200041
法人名	社会福祉法人 真寿会
事業所名	グループホーム真寿苑
所在地	和歌山県田辺市新庄町3165-1 (電話) 0739-23-2722

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成21年3月18日	評価確定日	平成21年3月31日

## 【情報提供票より】(21年2月13日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成19年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤	10人, 非常勤 2人, 常勤換算 4.6人

### (2) 建物概要

建物構造	木造スレート平屋建 造り		
	1 階建て	1 階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900円		

### (4) 利用者の概要(2月13日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	78 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	田辺中央病院、真寿苑クリニック
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者は理念(利用者の人権尊重・優しい思いやり・地域に根ざした福祉サービス・知己社会のよき相談相手になるなど)の実践に向け積極的な意欲を見せており、職員たちに良い影響を与えていると同時に、信頼関係がつくられている。利用者家族には、個々の事情に応じた希望や、思いを利用者自治会や面会時に引き出し日常生活に反映させている。健康管理では看取り介護も含め法人の医療施設や家族と密接な関係を築いており、利用者は法人医師の来診を心待ちに喜ぶ等、ホットな雰囲気のある事業所である。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価はサービスが惰性的にならないよう、改善の機会を与えてくれるので、機会あるごとに、申し送りやミーティングで取りあげて、改善に繋いでいる。前回の改善課題であった推進会議の参加者については、町内会長の出席があり、地域の盆踊りや保育所、小学校の運動会への参加が実現し徐々に連携が増えている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義を職員たちは、反省改善の好機であると捉え、協力し改善に向けて取り組む材料にしている。客観的に前向きに職員で話し合い自己評価を行った。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>地域民生委員や法人のケアマネージャー、地区町内会長が参加しており、地域の行事の情報を提供してくれていて、地域の夏祭り、小学校の運動会、保育所への行事等に参加している。また、施設事業の説明、報告を行ない、感染対策などにも取り組んでいる。委員の構成メンバーを、今後広く参加して貰えるように法人との関係も検討していく方向である。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)</p> <p>現在のところでは、苦情はなく玄関に意見箱をおいているが、意見は出されていない。家族には面会時や電話、または請求書の送付時に手紙・写真を同封する等、出来るだけ利用者の様子を伝え不安の無いように努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>周辺に住宅が少ないが、年二回の地域の防災訓練参加や、小学校の運動会・保育所行事、毎日の散歩を利用して連携を広げるように努めている。地域の民生委員から行事の案内や、小学校・保育所から招待されることがある。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の人権尊重・優しい思いやり・地域に根ざした福祉サービス・知己社会のよき相談相手になる等の地域密着型サービスとしての理念がある。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は常に理念の共有化が出来るように、申し送りやミーティングを利用して理念に触れている。また職員で話し合い利用者が地域で安心して暮らせるように努力している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	周辺に住宅が少ないが、年二回の地域の防災訓練参加や、小学校の運動会・保育所行事、毎日の散歩を利用して連携を広げるように努めている。地域の民生委員から行事の案内や、小学校・保育所から招待されることもある。事業所を知って頂けるように努めたり、触れ合いを持つようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を職員たちは、反省改善の好機であると捉え、協力し改善に向けて取り組む材料にしている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、ホームの説明を行ったり、参加者から地域情報等を出して貰ったりしている。行事への参加の誘いには出来るだけ参加できるよう取り組む等、サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政関係には、主に電話で契約や運営等に関して相談している。事業母体が主に関わっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	手紙や写真等を利用して、生活の様子を知らせたり来所時に出来るだけ時間をとり知らせている。金銭に関しては出納帳のコピーとレシートを送り報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を置いているが、家族からの意見は見られない。家族の意見や要望については出来るだけ話す機会を持ち聞くようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員は紹介し馴染んで貰える様に努め、利用者への対応は慣れてからにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には交代で参加している。日常で分からない事などは、その都度説明をしたり、チームで解決する様にしている。また、介護普及センターが法人施設内にあり、月一回研修が予定されていて、参加する機会が多い。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の教育研修・介護普及センターの研修に恵まれており、他ホームの参加する研修会には管理者同志では交流している。	○	恵まれた教育環境にあるが、他法人・事業所との交流を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	徐々に馴染んでいただくようにしばらくは利用者につき添っている。利用者の心情に配慮し、徐々に馴染んでいける様に工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の前準備、洗濯物たたみ、園芸、手芸、ご詠歌クラブなど職員と共に過ごし、教え教わる関係をつくりあげている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者自治会の話し合いで希望や意向を把握するように努力している。また、家族の話や本人の表情も観察・洞察している。日常生活の予定は当日に意見を取り入れ、散歩、買い物など個々の希望に添えるように努力している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の希望をカンファレンスで検討したり、本人の意向や生活状況も反映させて介護計画をつくっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に見直しをしている。状況の変化によっては柔軟に見直しを行い、家族の考えも聞きながら都度、計画している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族が安心して地域で生活出来る様、自宅介護の困難な場合等は予定以外のサービスを医療も含めて利用出来るように支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談の上、かかりつけ医を決めており、2週間に一度往診を受けており、急な変化があれば報告し指示をもらえる体制を取っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に家族と医師も含め話し合いを行っている。また、法人施設との連携を説明し、何時でも対応出来る支援体制をとっており、職員も含め共有出来ている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等の個人情報の取り扱いは慎重に行われている。服装の乱れやトイレ介助時の声かけ等にも、さりげなく支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天候は前日に把握し、朝の体調に合わせて買い物や、公園の散歩等、利用者のペースに合わせて支援するように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、おしぼり係り、食事下ごしらえ、片付けなど残存機能に応じた役割を職員と共に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月・火・木・金の内、週二回の入浴を実施しているが、利用者の希望により週4回利用されることもある。また、夜間の入浴希望もある。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	手芸、外出、買い物、散歩など利用者の希望に添えるように支援している。また、出来上がった作品や家族の写真を飾る等、楽しみながら過ごせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎朝、利用者の希望や天候に合わせて散歩、買い物等を決めており、出来る限り希望にそった支援に努めている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	非常口は、段差があり危険なため施錠しているが、玄関は日中は施錠していない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地震、水害時訓練や、津波想定の方難訓練を消防署立会いで実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、排泄、栄養など、栄養士の協力も得ながら利用者ひとり一人の記録を取る等、利用者の状況に応じ管理、支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周辺、居間食堂には、季節の花が飾られたり、プランターを並べ、季節感に溢れている。天窓からの採光が柔らかく感じられるよう工夫され、全体に暖かな共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	泊まり室に使い慣れたなじみの 小物や、仏壇、写真、手芸品を置いたり、花を飾る等、居心地良く工夫している。		